

山麓探偵団通信

7&8月

セミの鳴き声を聞いて、彼らの暮らしぶりを、少しでも知ろう！と企画した六月二十五日は、梅雨の真最中でありながら、幸いに晴れの天気にも恵まれました。

忍野村の二十曲峠のふもとにある人工調整池の周囲を、林正美先生のご指導の下、採集と観察をして半日歩きました。先生所有の9メートルもの採集用グラスロッドの8段長竿を、一同唸然と見上げたあと、それぞれに捕虫網をもち、トンボやチョウを追いかけては、逃げられ、うまく採集できたものを観察、生態を説明していただき、さらに若干の処理までを体験できました。探偵団の昆虫シリーズで六月に活動するのは初めてでしたので、この時期特有の珍しい出会い（ツナノキに寄生するタケウチトゲアワフキ）もありました。

おおまかな分類の一端にふれ、体節とはなにか、雌雄の見分け方、植物との関係などの解説で、あらためて自分たちは昆虫というこの身近な仲間のことを、実は何も知らないのだと思知らされました。幸い、エゾハルゼミが採集され、

雄の腹を占める共鳴室、背中側を通る内臓などを観察し、鳴き声のメカニズムを目の当たりに見ることができました。

数十年ぶりに虫網を手にして走る仲間たちは、まるで彼らの遠い日を追っているかのような、そんな後姿も、思いがけないオマケでした。



この日出会った虫たちは、主にアワフキムシ二種・モンキチョウの雌雄・ヒョウモンチョウ・シジミチョウ・ジャコウアゲハ・スジグロシロチョウ・コメツキムシ・シオカラトンボ・カワトンボ・カメムシ四種などですが、他にも名前さえ追えなかった小さな虫たちが大勢いました。

■林正美先生のご講評

季節を変えて、外に出て、そこに何がいるか、それを正しく見るといことが大事です。こういった遊べる場所で、教材である昆虫のちよっとした動きでも、足元の楽しい発見になるのだと思います。

◆参加者の感想

今回は特に、映像カメラマンの伊藤浩美さんが探偵団の活動場所をさがしてくださり、大好評でした。ほとんどの方が、近所なのに全く知らずにいたというので、まさにカメラマンの丸秘の仕事場なのですね。ありがとうございます。

M・じっさいに採集を体験して、面白く、楽しい一日でした。

J・日常を忘れて、頭をからっぽにして虫を追いかけてました。

M・こんな身近な場所で、楽しかったし、また自然との一体感がありました。

Y・梅雨の晴れ間のいい一日でした。こういう場所との出会いが、自分には収穫でした。

H・静かな環境で、気もちのよい一日でした。わたしたちは、自然界の生き物たちを、仲間（とか 友だち）とか おとなりさん」とか呼びますが、林先生が もし自分がセミだ

つたとしたら」と当たり前のように話されたので、そういう関わり方もあるのかと、はつとしました。

🌸 第241回 探偵団活動のご案内

響きあういの方々の場で

アルピニストの戸高雅史氏を団長に、一泊の野宿を予定しています。火を囲み、滝に入り、星空の真下で夜を過ごすことで、意識ではなく、体が今ここにあるという実感を得たい！と企画しました。

・開催日時：九月十二日（土）
午前10時にあみん集合
翌日（十三日）の夕方解散

参加費：八五〇〇円（ガイド代、二食分の食料費・保険代）

・持ち物：昼食・シユラフ・銀マツト・防寒着・着替え・おやつ・翌日の昼食になる行動食・雨具・沢シューズ（レンタル有）

*準備のため、八月末までにお申し込みください。

発行：山麓探偵団 事務局
山梨県山中湖村平野 一六九八
電話：〇五五五 六五・七〇二三